

---

# 夢と現実

HISOKA

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢と現実

### 【Nコード】

N9401M

### 【作者名】

HISOKA

### 【あらすじ】

担任を殺した主人公、光。

でも、誰かが頭の中で問いかける。

それは本当に現実なの？

そんな中光の周りでは奇妙なことばかりがおきる。

## 夢と現実

暗い暗い闇の中であたしは夜担任を呼び出した。  
担任の名前は小野健太郎。

呼び出すのはそう簡単なこともなかった。

『先生と話したいことがある。』

そういえば小野はすぐにつれた。

あたしが呼び出したのは夜中は誰も通らない人気のない路地。

「どうしたんだい、こんなところに呼び出して。」

小野がそうあたしに聞いてくる。

「先生、あたし貴方のことが大嫌いでした!!」

そういつて後ろに隠し持っていた包丁で小野の腹部を刺す。

指紋もつかないようにちゃんと手袋までした。

「あ、ひ、かりさん。」

「気持ち悪い声であたしの名前呼ばないでください。」

あたしの腕をつかんできた小野を蹴り飛ばしあたしは止めを刺すためにもう一度今度は首に包丁をつきたてた。

小野は目を見開いたまま

死んだ。

あたし小野の妻美千代のハンカチをその場に落とし、美千代の指紋をつけた包丁を近くに投げ捨てた。

そして、小野の携帯をとるとそれを川に投げる。

小野の携帯は機種が古く防水加工はしていない。

これで、完璧に証拠は消した。

アリバイもちゃんと作ってある。

ふと、服を見ればお気に入りだった服が小野の血で汚れている。  
「汚らしい。」

あたしは誰か来る前にその場を立ち去った。

これで完全犯罪が完成する。

だれも、14歳のあたしが小野を殺したなんて思いもしないだろう。

だってあたしは子供なんだから。

## 夢と現実

あたしはその後、誰にも見られずに自分の家の前に来ていた。そして、合図するように自分の部屋の窓に小石を投げつける。

すると、窓が開き笑顔の親友、桃子が静かに手を振ってロープを伸ばす。

もう、親は寝静まっておりますあたしは窓から自分の家に帰った。

「おかえり、ヒカ！洋服汚れちゃったね。」

桃子はそういうと血で汚れた服を見つめる。

「ああ、だいじょうぶ。適当に処分すれば何てことないよ。」

そういうと、あたしはクローゼットの中から新しい服を出し着替える。

この血のついた服はどこかにうめれば問題ないだろう。

「で、どうだったあの豚！死んだ！？」

ニコニコしながらそういつてくる桃子にあたしも笑顔を見せる。

「ええ、ばつちり殺してきたわ。あの豚の死に様、ホント気持ち悪かったわよ。」

あたしはそういうと桃子は面白そうにその話を聞いていた。

豚というのはあたし達の間だけの小野のあだ名。

小野は担任の地位を使って女子生徒にセクハラをしていた。

桃子とあたしはその被害者。

それを、妻の美千代に話したのはあたし。

そのせいで、離婚問題でもめていた二人を見ていてこの計画を思いついた。

なかなか、離婚届に判を押さない夫にイラついた妻が勢い余って夫を殺害。

小説でありそうなベタな事件だが現実ではそれが普通だ。

実はもつと小野を苦しめたかったが人に見られてはこの計画がパアになってしまったため綺麗に殺したつもりだ。

「さあ、もう寝よう。今日、泊まってくでしよ？」

「もち、一緒に寝るの久しぶりだね。」

そういつてあだし達はベッドに入ると静かに目を閉じた。

そして次の日。

予想どおり、小野の事件は妻の美千代が容疑者に上がっていた。

あだし達はそれを見て薄く笑うのだった。

## 夢と現実（後書き）

あれ？

なんか百合要素が入ってるような気がするけど友達だからこついうのもいいですね？

## 夢と現実

あたし達が学校に向かうと他の先生達があわただしく動いていた。まるで働きアリみたいでひねり潰したくなるように。

「山田光ちゃんに中山桃子ちゃんだね。」

それを見ているとスーツを来た男の人、これはたぶん刑事だと思う人たちが2人やってきた。

妻の美千代はもうあたし達のことまで話したらしい。

あの人は、押しに弱いためすぐにはいたのだろう。

「私達刑事なんだけけど少しお話をいいかな。」

そういつて刑事はあたし達に目線を合わせる。

あたし達はおずおずと首を縦にふりそつと手を握る。

刑事はその様子を見て怖がらせないように優しい声色でいつてくる。

「だいじょうぶ、少しお話を聞くだけだから。」

なにを勘違いしているのか。

これはただの合図に過ぎない。

あたし達はこれを合図でかわいそうな生徒を演じるだけの話。

それを大人はすぐに変な方向にもっていきたがる。

子供だから。

素直で弱い子供だから。

そんな先入観が全てを狂わせるんですよ？

空き教室にはいるとあたし達は用意されたイスに座る。

「早速なんだけど、君たちの担任の小野健太郎さんが殺されたのは知ってるね。」

それにあたしは静かに頷いた。

「小野さんの妻、美千代容疑者は君たちが小野さんからセクハラを受けていたと聞いて離婚をきめたらしいんだけどそれは本当かい。」

「はい。」

あたしがそういつと、刑事はかわいそうにといわんばかりになめで



あたしたちを見る。

その目がイラつく。

ヘドが出る。

そんなに、あたし達がそんなにかわいそうに見えるのかよ。

心の中でそう叫びながらあたしはずっと制服のスカートを握り締めていた。

「美千代容疑者にそれを言ったのも君たちかい？」

「はい、先生達に言っても絶対に聞き入れるわけないって小野先生に言われて…奥さんなら聞いてくれるかもって。」

あたしがそういうと、刑事は手帳にそれを記入する。

「あの、先生を殺したのって美千代さんなんですか!？」

桃子は目に涙をためながらそういつてくる。

まったく、この人の演技力には驚かされる。

そんなことちとも思っていないくせによくこんな演技が出来るものだ。

「美千代容疑者は否認しているが証拠がそういつているからね。捕まるのも時間の問題だよ。」

刑事はそういうと手帳をしまい、席を立った。

「ありがとう。また聞きたいことがあつたらくるから。」

そういわれてあたし達は立ち上がってお辞儀をする。

刑事達が出て行くとあたしは薄く笑い出す。

「馬鹿の大人をだますのは本当に簡単だよね。」

あたしがそういうと桃子は袖で涙を拭き笑顔を見せる。

それからあたし達は教室に戻ると、全ての授業が自習となった。

そして、帰り道。

桃子と一緒に帰っているとふと頭の中に言葉が浮かぶ。

本当にそれが現実？

なにいつてるのよ。

現実が決まったてるじゃない。

そう思っているとふと木の向こうに小野の姿が見えた。

「え！」

瞬きをしてもう一度そこを見るともうそこには何も無い。

「どうしたの？」

桃子にそういわれてあたしは急いで笑顔を作る。

気のせい、気のせいだ。

心の中でそう呟きながらあたしは家に帰った。

## 夢と現実

あの小野を見た後から体が重い。

なに？

あいつが取り付いたって言うの？

馬鹿馬鹿しい。

そんなのありえない。

確かにあいつを殺したのはあたしだけどあいつは殺されていいような醜い大人。

ご飯を食べ終わりPCを開くとネットじゃあこの事件のことで盛り上がっていた。

悪く言う人や面白がってる人。

みんな馬鹿ばっかりで呆れてしまう。

「みんな、馬鹿ばっか。」

そういいながらPCを閉じベッドに倒れこむ。

今日は宿題もないし早く寝よう。

電気を消し、目を閉じてあたしはそのまま眠ろうとした。

そのときだ、

部屋の中に何かの気配を感じた。

そう気づいた瞬間体が動かなくなる。

その気配はだんだんと近寄ってきてあたしのベッドのところにやってきた。

ひかりさん

小野！？

その声はまさしく殺したはずの小野だった。  
消えそうな声だが確かにあたしの名前を呼んだその声に恐怖がつのる。

あたしは動かない体を無理やり動かし目を開ける。  
すると、もうその気配はなくなりただの暗闇だ。

「なんだったの。」

あたしは一つ呟くと電気をつける。

すると机の上においていたノートが開かれていた。

なんで開いてるの…？

嫌な予感がしたが恐る恐るそれを見ると真っ赤な文字で

《ユルサナイ》

「ひっ！！！！」

驚いてそのノートを床に落とした。

「なによ、あんたが悪いんじゃない…。許さないなんてふざけんなよ！！！」

あたしは恐怖を取り除くように叫ぶとノートを引き出しの奥に詰めて明かりをつけたままベットにもぐりこんだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9401m/>

---

夢と現実

2010年10月10日07時12分発行